

CA Configuration Automation®

リリース ノート

r12.8 SP02



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2015 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このドキュメントでは、以下の CA コンポーネントおよび製品を説明しています。

- CA Network Discovery Gateway (CA NDG)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA BI (CA Business Intelligence)

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章：概要	7
第 2 章：新しい機能および拡張機能	9
新規および更新されたブループリント	12
第 3 章：サポートされるオペレーティング環境	13
CA Configuration Automation サーバ	13
CA Configuration Automation データベース	14
CA Configuration Automation グリッド	15
CA Configuration Automation エージェント	15
Network Discovery Gateway	17
NDG ディスカバリ用の Softagent プラットフォーム範囲	21
制限事項.....	26
第 4 章：システム要件	27
プリインストールされているデータベース	28
SQL Server 認証設定	29
Java 仮想マシン	29
[画面のプロパティ] - [設定] (Windows)	30
ネットワーク	30
プロセッサ	31
メモリとディスク領域	31
Web ブラウザのサポート	33
CA EEM サーバのサポート	33
ストレージエリア ネットワーク (SAN) マネージャ ソフトウェア	34
周辺装置.....	34

第 5 章: 発行済みの修正プログラム	35
第 6 章: ドキュメント	37
付録 A: 使用条件	39

第 1 章：概要

このドキュメントには、このリリースの **CA Configuration Automation** の新機能および拡張機能が記載されています。また、インストール要件および考慮事項、製品ドキュメントの概要、および [CA テクニカル サポート \(P. 3\)](#) への問い合わせに関する情報も含まれています。

第 2 章：新しい機能および拡張機能

このセクションでは、このリリースでの新機能および拡張機能について説明します。

[ライブ参照]を使用したコンプライアンス ジョブの実行

[タスク] メニューの [コンプライアンス ジョブの実行] オプションから [ライブ参照] オプションを指定して、[新規ルール グループの作成] でオブジェクトに対するコンプライアンス ルールを作成できます。以下の操作を行うことができます。

- サーバ内のファイル システム、Windows レジストリ、Windows サービス、グループ ポリシーのオブジェクトを参照できます。
- 準拠サーバでオブジェクト用のコンプライアンス ルールを作成します。
- 選択したサーバ、サービス、またはサーバ グループに対してコンプライアンス ジョブを実行します。
- [修復ジョブ] タブを使用して修復ジョブを実行し、サービス、サーバ、またはサーバ グループ上の非準拠オブジェクトを修復します。

スクリプトを検証するためのスクリプト エディタの使用

スクリプトの作成中、[スクリプト エディタ] を使用して、オンデマンドでスクリプトの作成とターゲット マシン上でのスクリプト実行ができます。

- **ブループリント統合**：ユーザがスクリプトを追加、変更、および実行できるように、[スクリプト エディタ] はブループリント構成実行可能ファイルのバケットに統合されています。

注：OOTB 構成実行可能ファイルは変更できません。

- **ライブ参照統合**：[スクリプト エディタ] は [ライブ参照] 機能と統合され、さらにライブ参照でルールの追加または更新用に拡張されます。

レポートの機能拡張

[レポート] タブでルール コンプライアンス (サーバ) レポート用に、[サーバおよびルール グループ別] オプションでは、それぞれの選択されたサーバについて各ルール グループでの合格ルールおよび失敗ルールの詳細が説明されます。さらに、ルール コンプライアンス (サービス) レポート用に、[サービスおよびルール グループ別] オプションでは、選択されたサービス内の各サーバに対して各ルール グループでの合格ルールおよび失敗ルールの詳細が説明されます。

Microsoft Windows 2012 のサポート

標準へのコンプライアンスとして、現在のリリースで Windows 2012 がサポートされるようになりました。

データベースのサポート

CA Configuration Automation 管理者は以下のデータベースを使用できます。

- Microsoft SQL Server 2014
- 以下の環境にインストールされている Oracle 12c データベース :
 - RHEL 6 64 ビット (OS パッチ レベル 2.6.32-279.el6.x86_64)
 - Windows 2008 R2 64 ビット (バージョン 6.1.7601)
 - AIX 6.1 64 ビット (OS パッチ レベル 6100-08)

注:

- Oracle 12c での CCA データベース作成は、ローカル ユーザ規則でプラガブルデータベース (PDB) サービス名に対して認定されます。
- 以下の場合、CA Configuration Automation 12.8 SP02 では CCA データベースの作成はサポートされません。
- サービス名または SID がコンテナ データベース (CDB\$ROOT) に関連付けられている。
- 共通ユーザの表記が C## または c## で始まる。

Java JRE サポートの更新

CA Configuration Automation r12.8 SP02 では製品インストールの前に Java JRE 1.7.0_51 がインストールされます。

ブループリントの[ディスカバリのテスト]フィールドでの拡張検索

ユーザは検索フィールドのブループリント コンポーネント名を入力でき、使用可能なコンポーネントのリストには、ユーザの検索条件で始まるコンポーネントが表示されます。

コマンドライン拡張機能

cca コマンドラインユーティリティ「ccautil」で利用可能な assignprofile タスクを使用して、サーバ管理プロファイル、サーバアクセス プロファイル、およびサービス管理プロファイルを更新する管理プロセスを自動化できます。

解釈されたクラスタ

解釈されたクラスタと呼ばれる新しい解釈タイプにより、クラスタ ノードと対応するターゲット データベースのインスタンスとの間の関係を形成するためのクラスタ名を定義できます。クラスタ ディスカバリ情報は、デフォルトでは AIX および RedHat のクラスタ プラットフォーム上で、Oracle 11g データベースのインスタンス (UNIX) および Oracle 10g データベースのインスタンス (UNIX) のブループリントで使用可能です。

[コンポーネント詳細] (サービス) の [レポート テンプレート] の [ターゲット] タブには [利用可能なサーバ] が含まれる

CA Configuration Automation r12.8 SP02 以降、[レポート テンプレート] 内の [ターゲット] タブに、[利用可能なサーバ] のシャトル コントロールがリスト表示されます。レポートでは、単一の選択したコンポーネント ブループリント用に複数のサーバが取得されます。

修復ジョブ実行中の [ステップの削除]

ここでは、コンプライアンスおよびジョブに対する修復ジョブの実行中、[サーバ] タブ内の [アクションの選択] ドロップダウン リストで利用可能な [ステップの削除] アクションを使用して、サーバ用の複数の手順を削除できます。

CSV 形式での CCA レポートの実行

ここでは、CSV 形式での CCA レポートのスケジュールや実行ができます。ユーザが [通知にレポートを添付して送信する] オプション、[Destination Delivery Type as File System] を使用して CCA レポートをスケジュールまたは実行すると、CSV 形式が生成されます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[新規および更新されたブループリント](#) (P. 12)

新規および更新されたブループリント

このリリースには、以下の新規ブループリント、または更新されたブループリントが含まれます。

ブループリントの名前	コンポーネントバージョン	ブループリントバージョン
Windows Server 2012（コンプライアンス ルールを含む）	2012	1.0.0
Microsoft Exchange Server 2010	2010	1.0.0
Oracle Database 10g（UNIX）	10.*	2.0.0
Oracle Database 10g インスタンス（UNIX）	10.*	2.0.0
Oracle Database 11g（UNIX）	11.*	2.0.0
Oracle Database 11g インスタンス（UNIX）	11.*	2.0.0
Microsoft SQL 2008 Server インスタンス	10.*	1.0.0
Microsoft SQL 2008 Server データベース	10.*	1.0.0
Microsoft SQL 2012 Server インスタンス	11.*	1.0.0
Microsoft SQL 2012 Server データベース	11.*	1.0.0

注:

- Oracle 10g および 11g の Unix ブループリントで、Oracle Database サーバに加えて、コンポーネントとして各データベース内のインスタンスを検出できます。
- Microsoft SQL 2008 および 2012 ブループリントで、コンポーネントとして SQL サーバ インスタンスおよび各 SQL サーバ インスタンス内のデータベースを検出できます。

第 3 章：サポートされるオペレーティング環境

この章では、さまざまな CA Configuration Automation コンポーネントによってサポートされているオペレーティング環境について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA Configuration Automation サーバ](#) (P. 13)

[CA Configuration Automation データベース](#) (P. 14)

[CA Configuration Automation グリッド](#) (P. 15)

[CA Configuration Automation エージェント](#) (P. 15)

[Network Discovery Gateway](#) (P. 17)

CA Configuration Automation サーバ

CA Configuration Automation サーバソフトウェアのインストールは、以下のオペレーティング環境でサポートされています。

- Microsoft Windows Server 2008（32 ビット版と 64 ビット版）
- Microsoft Windows Server 2008 R2
- Microsoft Windows Server 2012
- Novell SUSE Linux 9、10、および 11（32 ビット版と 64 ビット版）
- Red Hat Enterprise Linux 5 および 6（32 ビット版と 64 ビット版）
- Solaris 10（32 ビット版と 64 ビット版）

注：CA Configuration Automation サーバには、可能であれば 64 ビット オペレーティングシステムの専用サーバを使用してください。

CA Configuration Automation データベース

以下のデータベース サーバで CA Configuration Automation データベース ソフトウェアのインストールがサポートされます。

- Microsoft SQL Server 2008（現在のパッチを使用）
- Microsoft SQL Server 2012
- Microsoft SQL Server 2014
- Oracle 11g
 - OS：Linux、AIX、および Windows のみ
 - データベース バージョン：11.2.0.1、11.2.0.3、11.2.0.4

CA Configuration Automation r12.8 SP01 以降、Oracle 11g ASM の環境は以下のプラットフォーム用に認定されています。

- RHEL 5（64 ビット）
Oracle RAC による ASM クラスタの構成で使用可能な Oracle Database 11g（11.2.0.1）
- Windows 2008（x64）
- スタンドアロン ASM で使用可能な Oracle Database 11g（11.2.0.1）

注：可能であれば、データベース サーバには専用サーバを使用してください。

- Oracle 12c データベースは以下の環境でサポートされています。
 - RHEL 6 64 ビット（OS パッチ レベル 2.6.32-279.el6.x86_64）
 - Windows 2008 R2 64 ビット（バージョン 6.1.7601）
 - AIX 6.1 64 ビット（OS パッチ レベル 6100-08）

注：

- Oracle 12c での CCA データベース作成は、ローカル ユーザ規則でプラグブルデータベース（PDB）サービス名に対して認定されます。
- 以下の場合、CA Configuration Automation 12.8 SP02 では CCA データベースの作成はサポートされません。
 - サービス名または SID がコンテナ データベース（CDB\$ROOT）に関連付けられている。
 - 共通ユーザの表記が C## または c## で始まる。

CA Configuration Automation グリッド

以下の動作環境は、CA Configuration Automation Grid ソフトウェア インストールをサポートします。

- Microsoft Windows Server 2008 （32 ビット版と 64 ビット版）
- Microsoft Windows 2008 Server R2
- Microsoft Windows Server 2012
- Novell SUSE Linux 9、10、および 11 （32 ビット版と 64 ビット版）
- Red Hat Enterprise Linux 5 および 6 （32 ビット版と 64 ビット版）
- Solaris 10 （32 ビット版と 64 ビット版）

注：可能であれば、64 ビットのオペレーティング システムのバージョンを使用してください。

CA Configuration Automation エージェント

CA Configuration Automation Agent ソフトウェア インストールは以下の動作環境でサポートされています：AIX v6.1 （32 ビットのエミュレーションモードおよび 64 ビットのバージョン） および AIX v7.1 （64 ビットのバージョン）

- CentOS Linux リリース 5 （エージェント ホストに `compat-libstdc++-33` および `libXp-1.0.0-8.1.el5` コンポーネントのインストールが必要）
- Debian 6.0.1
- HP-UX 11i （32 ビット版と 64 ビット版）、HP-UX 11i v3 Itanium および PA-RISC （32 ビットおよび 64 ビット エミュレーション モード）
- Microsoft Windows Server 2003 SP2 以降、Windows 2008 Server （32 ビット版と 64 ビット版）、および Microsoft Windows 2012
- Oracle Linux 4、5、および 6 （4.8 x64、5.7 x64、6.2 x86/x64 で動作確認済み）
- Red Hat Enterprise Linux 4、5、6 （32 ビット版と 64 ビット版）
- Solaris 10 （32 ビット版と 64 ビット版） および Solaris 11 （Sparc および Intel x64）
- SUSE Linux 8、9、10 および 11 （32 ビット版と 64 ビット版）

- Ubuntu Linux バージョン 12、13（32 ビット CCA エージェントが動作するには、64 ビット マシンに ia32-libs をインストールします）

注: CCA エージェントは Ubuntu 12.10 x64 および Ubuntu 13.04 x86 で動作確認されています。

CA Configuration Automation エージェントは、インストールされているサーバ（CentOS Linux を除く）上で、データベースを呼び出すことができます。次の表に、各 CA Configuration Automation エージェント プラットフォーム（左側の列）が呼び出すことができるデータベースのリストを示します。

エージェント データベース接続性	Oracle DB 11g	Microsoft SQL 2008	Microsoft SQL 2012	MySQL 5.1
AIX 6.1（64 ビット版）	X			
Solaris 10				X
Red Hat Enterprise Linux 5 x86（64 ビット版）				X
Red Hat Enterprise Linux 6 x86（32 ビット版）				X
Red Hat Enterprise Linux 6 x86（64 ビット版）	X			
Windows 2008 32 ビット版	X	X		X
Windows 2008 64 ビット版	X	X	X	X
Windows 2012 64 ビット版	X	X	X	X

注: Oracle 11g 32 ビット アプリケーションは、64 ビット オペレーティングシステム上に 32 ビット 互換モードでインストールされます。

Network Discovery Gateway

以下の動作環境は、Network Discovery Gateway（NDG）ソフトウェアインストールをサポートします。

- Microsoft Windows Server 2008（32 ビットおよび 64 ビットプラットフォーム上の 32 ビット互換モード）
- Microsoft Windows Server 2008 R2
- Microsoft Windows Server 2012

以下のテーブルでは、NDG ディスカバリ用の softagent プラットフォームの範囲について説明します。

注: VMware ESXi でサポートされているバージョンは 4.x、5.0、5.1 および 5.5 です。

凡例

- x = サポートされた項目を示す
- NA = 項目は指定されたプラットフォームで使用不可
- *x = 特定バージョンでサポートされることを示す
- *1 = Itanium のみ、PA-RISC は含まず
- *2 = cpu descr から取得
- *3 = OS バージョンと類似
- *4 = 「64 ビット」で、PowerPC
- *5 = VMware 関連のサービスのみ
- *6 = 部分的な範囲
- *7 = すべてのインターフェースで同じ
- *8 = Window 2008 のみ
- *9 = Solaris VM では非サポート
- *10 = SATA および IDE のハードディスクをサポート
- *11 = リリース情報のない RHEV 名のみ

サポートされる属性	Windows	AIX	HP (ia64)	HP (PA-RISC)	Solaris	Linux
-----------	---------	-----	--------------	--------------	---------	-------

サポートされる属性	Windows	AIX	HP (ia64)	HP (PA-RISC)	Solaris	Linux
ホスト名	x	x	x	x	x	x
manufacturer	x	x	x	x		x
モデル	x	x	x	x		x
serial_number	x	x	x	x		x
os_detail	x	x	x	x	* 2	x
os_type	x	x	x	x	x	x
os_vrsn_major	x	x	x	x	x	
os_vrsn_minor	x	x	x	x	x	
os_kernel	N/A		x	*1	* 3	x
ドメイン名	x	x			x	x
processor_name	x	x	x			x
processor_arch	x	*4	x	x	x	
processor_descr	x					
processor_manufacturer	x		x	x		x
processor_max_clock_speed	x	x	x	x	x	x
processor_l2_cache_size	x	x			x	x
processor_l2_cache_speed	x	NA	NA	NA	NA	NA
processor_logical_cnt	x	x	x	x	x	x
memory_capacity	x	x	x	x	x	x
memory_type	x	NA	NA	NA	NA	x
memory_speed	x	NA	NA	NA	NA	x
memory_slots_in_use	x	x	NA	NA	x	x
memory_total_slots	x	NA	NA	NA	NA	NA
bios_name	x	NA	NA	NA	x	x
bios_manufacturer	x	NA	NA	NA	NA	x
bios_serial_number	x	NA	NA	NA	NA	NA

サポートされる属性	Windows	AIX	HP (ia64)	HP (PA-RISC)	Solaris	Linux
IPv4 アドレス	x	x	x	x	x	x
IPv6 アドレス	x	x			x	x
MAC アドレス	x	x	x	x	x	x
インターフェース インデックス	x	x	x	x	x	x
インターフェース速度	x	x	x	x	*6	x
インターフェース二重化	x	x	x	x	*6	
インターフェース ネゴシエーション	x	x	x	x		
デフォルト IPv4 ゲートウェイ	x	x	x	x	*6	x
デフォルト IPv6 ゲートウェイ	x					x
IPv4 DHCP サーバ	x					
IPv6 DHCP サーバ						
DNS ドメイン	x	*6	x	x	*7	x
service_display_name	x	NA	NA	NA	x	NA
service_key_name	x	x	x	x	x	x
service_logon_as	x	x	x	x	x	x
service_path	x	x	x	x	x	x
service_startup	x	NA	NA	NA	NA	NA
application_name	x	x	x	x	x	x
application_publisher	x	NA	x	x	x	x
application_version	x	x	x	x	x	x
application_arch	NA	NA	x	x	x	x
application_install_date	x	x	x	x	x	x
application_install_location	x	x	x	x	x	x

サポートされる属性	Windows	AIX	HP (ia64)	HP (PA-RISC)	Solaris	Linux
application_is_patch	x		x	x		
physical_disk_index	x	x	x	x		
physical_disk_name	x	x	x	x	x	x
physical_disk_size	x	x	x	x	x	x
physical_disk_interface_type	x	x			x	x
physical_disk_media_type	x	NA			x	
physical_disk_model	x	x	x	x		
physical_disk_free_space	x	x	x	x	x	x
physical_disk_serial_number	*8	x	*6	*6	*9	*10
logical_partition	x	x	x	x		
logical_partition_name	x	x	x	x		x
logical_partition_index	x	x	x	x	x	x
logical_partition_filesystem	x	x			x	x
logical_partition_is_bootable	x	x			x	x
logical_partition_is_primary	x	x				
logical_partition_size	x	x	x	x	x	x
logical_partition_free_space	x	NA	NA	NA	NA	NA
cd_dvd_drive_description	x	x	x	x	x	x
cd_dvd_drive_dev_id	x	x	x	x	x	x
cd_dvd_drive_media_type	x	x	x	x	x	x
tape drives	x					
tape drive_desc	x					
tape drive_dev_type	x					
tape drive_manufacturer	x					
ファイルシステム名	NA	x	x	x	x	x

サポートされる属性	Windows	AIX	HP (ia64)	HP (PA-RISC)	Solaris	Linux
ファイルシステム サイズ	NA	x	x	x	x	x
ファイルシステム マウント 場所	NA	x	x	x	x	x
filesystem free_space	NA	x	x	x	x	x
オープン ポート	x	x	x	x (制限)	x	x

NDG ディスカバリ用の Softagent プラットフォーム範囲

サポートされる 属性	z/Linux	VMware ESXi (SSH を使用)	VMware (Web サー ビス)	IBM-PowerVM (P5/P6)	Solaris 非グ ローバル ゾーン	Red Hat Enterprise Virtualization
ホスト名	x	x	x	NA	x	x
manufacturer	x	* x	x	NA	NA	NA
モデル	x	* x	x	NA	NA	NA
serial_number	x	* x	NA	NA	NA	NA
os_detail	x	* x	x	NA	x	* 11
os_type	x	x	x	NA	x	x
os_vrsn_major		NA	x	NA	x	NA
os_vrsn_minor		NA	x	NA	x	NA
os_kernel		x	NA	NA	NA	NA
ドメイン名	x	NA	NA	NA	NA	NA
processor_na me		x	x	NA	x	x
processor_arch		NA	NA	NA	NA	NA
processor_des cr		NA	NA	NA	NA	NA
processor_ma nufacturer	x	x	NA	x	NA	NA
processor_max _clock_speed		x	x	NA	NA	x

サポートされる属性	z/Linux	VMware ESXi (SSH を使用)	VMware (Web サービス)	IBM-PowerVM (P5/P6)	Solaris 非グローバルゾーン	Red Hat Enterprise Virtualization
processor_l2_cache_size		x	NA	NA	NA	NA
processor_l2_cache_speed	NA	NA	NA	NA	NA	NA
processor_logical_cnt	x	x	x	x	x	NA
memory_capacity	x	x	x	x	x	x
memory_type	NA	* x	NA	NA	NA	NA
memory_speed	NA	x	NA	NA	NA	NA
memory_slots_in_use	NA	x	NA	NA	x	NA
memory_total_slots	NA	* x	NA	NA	NA	NA
bios_name	NA	x	NA	NA	NA	NA
bios_manufacturer	NA	x	NA	NA	NA	NA
bios_serial_number	NA	NA	NA	x	NA	NA
IPv4 アドレス	x	NA	x	x	x	x
IPv6 アドレス		NA	NA	NA		
MAC アドレス	x	NA	x	NA	NA	x
インターフェイスインデックス		NA	NA	NA	x	NA
インターフェイス速度		NA	x	NA	NA	x
インターフェイス二重化		NA	x	NA	NA	NA

サポートされる属性	z/Linux	VMware ESXi (SSH を使用)	VMware (Web サービス)	IBM-PowerVM (P5/P6)	Solaris 非グローバルゾーン	Red Hat Enterprise Virtualization
インターフェース ネゴシエーション		NA	NA	NA	NA	NA
デフォルト IPv4 ゲートウェイ	x	x	x	NA	NA	x
デフォルト IPv6 ゲートウェイ		NA	NA	NA	NA	
IPv4 DHCP サーバ		NA	NA	NA	NA	NA
IPv6 DHCP サーバ		NA	NA	NA	NA	NA
DNS ドメイン	x	x	x	NA	NA	NA
service_display_name	NA	NA	*5	NA	x	NA
service_key_name	x	x	*5	NA		NA
service_logon_as	x	NA	NA	NA	NA	NA
service_path	x	NA	NA	NA	NA	NA
service_startup	NA	NA	*5	NA	x	NA
application_name	x	x	NA	NA	x	NA
application_publisher	x	* x	NA	NA	NA	NA
application_version	x	* x	NA	NA	x	NA
application_arch	x	NA	NA	NA		NA

サポートされる属性	z/Linux	VMware ESXi (SSH を使用)	VMware (Web サービス)	IBM-PowerVM (P5/P6)	Solaris 非グローバルゾーン	Red Hat Enterprise Virtualization
application_install_date	x	* x	NA	NA	NA	NA
application_install_location	x	NA	NA	NA	x	NA
application_is_patch		* x	NA	NA		NA
physical_disk_index		* x	x	NA	NA	NA
physical_disk_name	x	* x	x	NA	NA	NA
physical_disk_size	x	* x	x	NA	NA	NA
physical_disk_interface_type	x	* x	NA	NA	NA	NA
physical_disk_media_type		* x	x	NA	NA	NA
physical_disk_model		NA	x	NA	NA	NA
physical_disk_free_space	NA	NA	NA	NA	NA	NA
physical_disk_serial_number	x	NA	NA	NA	NA	NA
logical_partition		NA	NA	NA	NA	NA
logical_partition_name	NA	* x	NA	NA	NA	NA
logical_partition_index	NA	* x	NA	NA	NA	NA
logical_partition_filesystem	NA	* x	NA	NA	NA	NA
logical_partition_is_bootable	NA	* x	NA	NA	NA	NA

サポートされる属性	z/Linux	VMware ESXi (SSH を使用)	VMware (Web サービス)	IBM-PowerVM (P5/P6)	Solaris 非グローバルゾーン	Red Hat Enterprise Virtualization
logical_partition_is_primary	NA	NA	NA	NA	NA	NA
logical_partition_size	NA	* x	NA	NA	NA	NA
logical_partition_free_space	NA	NA	NA	NA	NA	NA
cd_dvd_drive_description	NA	NA	NA	NA	NA	NA
cd_dvd_drive_dev_id	NA	NA	NA	NA	NA	NA
cd_dvd_drive_media_type	NA	NA	NA	NA	NA	NA
tape drives		NA	NA	NA		NA
tape drive_desc		NA	NA	NA	NA	NA
tape drive_dev_type		NA	NA	NA	NA	NA
tape drive_manufacturer		NA	NA	NA	NA	NA
ファイルシステム名	x	x	NA	NA	x	NA
ファイルシステムサイズ	x	x	NA	NA	x	NA
ファイルシステムマウント場所	x	x	NA	NA	x	NA
filesystem free_space	NA	* x	NA	NA	x	NA
オープンポート	x	NA	NA	NA	x	x (1つのポートのみ)

制限事項

softagent プラットフォーム範囲に関する制限を以下に示します。

- **HP-UX** プラットフォームでは、**LSOF** ユーティリティがインストールされている場合にのみ、オープン ポートが表示されます。ユーティリティがない場合、特定のポートと関連付けられているプロセスに関する情報を取得することはできません。
- **Dmidecode** ユーティリティは、システム用に設定されているホスト詳細を取得するために **Linux** プラットフォームが必要です。
- **Solaris** 非グローバル ゾーンの **MAC** アドレスはグローバルゾーンと同じです。 **MAC** アドレスが一意であるため、非グローバルゾーンに対する **MAC** アドレスは表示されません。
- 現在アクティブなサービスに関して、**Unix** プラットフォーム用のサービス「ログオン名」 情報のみを取得できます。

第 4 章：システム要件

ソフトウェアをインストールする前に、「サポートされるオペレーティング環境」セクションで定義されているように、サポートされているデータベースを使用してサポート対象のプラットフォームにインストールしていることを確認します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[プリインストールされているデータベース](#) (P. 28)

[SQL Server 認証設定](#) (P. 29)

[Java 仮想マシン](#) (P. 29)

[\[画面のプロパティ\] - \[設定\] \(Windows\)](#) (P. 30)

[ネットワーク](#) (P. 30)

[プロセッサ](#) (P. 31)

[メモリとディスク領域](#) (P. 31)

[Web ブラウザのサポート](#) (P. 33)

[CA EEM サーバのサポート](#) (P. 33)

[ストレージエリア ネットワーク \(SAN\) マネージャ ソフトウェア](#) (P. 34)

[周辺装置](#) (P. 34)

プリインストールされているデータベース

CA Configuration Automation は、ブループリントおよびアプリケーション関連のデータを格納するためにリレーショナル データベースを使用します。既存の Oracle または Microsoft SQL Server 環境内にデータベースを作成できます。要件は以下のとおりです。

- CA Configuration Automation サーバインストール プログラムを実行する前に、ライセンスを付与されたデータベース ソフトウェアがインストールされている。
- CCA Server のインストール中にデータベース インスタンスと管理者 ユーザを作成できる。
- インストールまたはアップグレードを実行するユーザに以下のデータベース ユーザ権限があることを確認します。

Microsoft SQL Server ユーザ権限

- 最小インストール権限 : dbcreator
- 最小ユーザ権限 : db_owner

Oracle ユーザ権限

ユーザには、表領域に対して領域が割り当てられている必要があります。ユーザに RESOURCE ロールが割り当てられている場合、そのユーザには unlimited tablespace 権限が付与されます。ユーザに RESOURCE ロールが割り当てられていない場合は、以下のように alter コマンドを使用して、領域を割り当てる必要があります。

```
alter user cca quota unlimited on CCADATA;  
alter user cca quota unlimited on CCAINDEX;
```

以下の権限が必要です。

- CREATE PROCEDURE
- CREATE SEQUENCE
- CREATE SESSION
- CREATE TABLE
- CREATE TRIGGER
- CREATE VIEW

データベースのタイプにかかわらず、CCA Server のインストール中にデータベース スキーマに接続する場合、およびデータベース スキーマを作成または更新する場合、以下のデータベース関連の情報が必要です。

- CCA Database ユーザ名
- CCA Database パスワード
- データベース サーバ名
- データベース名（Microsoft SQL Server を使用している場合）または Oracle Service 名（Oracle データベースを使用している場合）
- CA Configuration Automation サーバ のインストール中にデータベース ユーザを作成することを選択する場合、データベース インスタンスの作成が許可された管理者のユーザ名およびパスワードが必要

SQL Server 認証設定

Microsoft SQL Server 上で CCA Database を作成する場合、SQL Server の認証設定を確認する必要があります。

注：Windows のみではなく SQL Server および Windows の認証を使用するようにしてください。正しい認証が設定されていない場合、CCA Database の作成は失敗します。

SQL Server の認証設定を確認する方法

1. SQL Server Enterprise Manager で [SQL Server グループ] を展開します。
2. サーバ名を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
3. [セキュリティ] タブをクリックします。
4. [認証] で、[SQL Server] と [Windows] が選択されていることを確認します。

Java 仮想マシン

CCA サーバをインストールするときには、インストールプログラムによって、テスト済みで、CCA サーバとの互換性が検証済みである Java VM バージョンのインストールが推奨されます。既存のインストール済みの Java VM を使用する場合は、バージョンが 1.6 以降であることを確認します。

注: Java VM の要件は、CCA エージェントのインストールおよびアンインストール操作にのみ必要です。Java VM は、通常のエージェント操作には必要ありません。

CCA エージェントのターゲット サーバに Java VM のバージョンがすでにインストールされている可能性があるため、CCA ディストリビューション DVD では 2 つの異なるエージェント インストーラを提供します。1 つのバージョンでは Java VM (agentvm) をインストールし、もう 1 つのバージョンでは Java VM (エージェント) をインストールせずに既存の Java VM の検索と使用を試行します。

注:

- インストール プログラムが一般的な場所にインストールされなかった場合、既存の Java VM が見つからない可能性があります。インストールが失敗した場合、CCA エージェントをインストールするには agentvm を使用してください。
- VM のないリモート CCA エージェント インストールについては、ターゲット マシンに JRE 1.5 以降がインストールされていることを確認します。

[画面のプロパティ]-[設定] (Windows)

Windows サーバ上でインストールを実行するモニタの [画面のプロパティ] - [設定] では、256 色以上に設定する必要があります。これは、インストーラ ユーザ インターフェイスが正しく機能するための要件です。

Windows サーバ上でインストールを実行するモニタで 256 色以上の設定ができない場合は、CA のサポートに回避策をお問い合わせください。

ネットワーク

イーサネット 10/100 Base-T またはギガビット イーサネット NIC (network interface card、ネットワーク インターフェイス カード) 経由のネットワーク接続が必要です。

プロセッサ

以下の表に、CA Configuration Automation および関連するコンポーネントに必要な最小プロセッサを示します。

コンポーネント	プロセッサ
CA Configuration Automation サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ■ CA Configuration Automation データベース を別のコンピュータに配置する場合は 2 GHz の Dual-Core プロセッサが 1 つ ■ CA Configuration Automation データベース を同じコンピュータに配置する場合は 4 GHz の Dual-Core プロセッサが 2 つ 注: 専用の CCA サーバを使用することをお勧めします。
CA Configuration Automation データベース	3 GHz の Dual-Core プロセッサが 2 つ (ネイティブデータベースベンダの要件も考慮する) 注: 専用のデータベース サーバを使用することをお勧めします。
Network Discovery Gateway	2 GHz の Dual-Core プロセッサが 1 つ
CCA グリッド サーバ	2 GHz の Dual-Core プロセッサが 1 つ
CA EEM サーバ	2 GHz の Dual-Core プロセッサが 1 つ
CA Business Intelligence	2 GHz の Dual-Core プロセッサが 1 つ

メモリとディスク領域

メモリとディスク領域のシステム要件は、以下の表で示すように、コンポーネントごとに異なります。

コンポーネント	メモリ (RAM)	ディスクの最小空き容量
CA Configuration Automation サーバ	4 GB を推奨 (最小でも 2 GB) CCA Server のパフォーマンスを最適化するために、1.5 GB の Java 仮想メモリがデフォルトで割り当てられます。	5 GB

コンポーネント	メモリ (RAM)	ディスクの最小空き容量
CA Configuration Automation データベース	8 GB 以上 ネイティブ データベース ベンダの要件を参照	100 GB (使用状況により異なる)
CA Configuration Automation エージェント *	10 MB	インストール要件 : <ul style="list-style-type: none">■ 170 MB は既存の Java VM を使用■ 300 MB は支給された Java VM を使用 ランタイム要件 : <ul style="list-style-type: none">■ 65 MB は既存の Java VM を使用■ 100 MB は支給された Java VM を使用
ネットワーク ディスカバリ ゲートウェイ *	2 GB 以上	2 GB
CCA Grid Server *	グリッド ノードの各インスタンスに 2 GB	5 GB
CA EEM サーバ	2 GB 以上	10 GB
CA Business Intelligence	2 GB 以上	C ドライブに 20 GB。合計 30 GB 要件の詳細については、BusinessObjects 製品のドキュメントを参照してください。

* これらのコンポーネントは同じサーバまたは仮想サーバにインストールできます。ただし、すべてのインストール要件を把握している必要があります。

インストールプログラムは、プログラムの内容を一時ディレクトリに抽出します（一時ディレクトリとは、Windows の TEMP 環境変数で指定されたディレクトリ、Linux および UNIX の /tmp ディレクトリ、または現在のユーザのホーム ディレクトリ）。抽出プログラムは十分な空き容量を確認します。インストールが正常に完了した後、またはキャンセルされた後、インストールプログラムで使用された一時ストレージは解放されます。

注: 専用の物理サーバとして構成されていると、データベース サーバのパフォーマンスは著しく向上します。データベース サーバのガイドラインについては、データベース管理者に相談してください。

Web ブラウザのサポート

CA Configuration Automation には、CA Configuration Automation サーバに対してデスクトップおよびサーバの両方からアクセスする Web ベースのインターフェースが含まれています。サポートされているブラウザは以下のとおりです。

- Adobe Flash のインストールされた Microsoft Internet Explorer 7、8、および 9
- Windows 7、およびデスクトップモードの Windows 2008 および 2012 上の Microsoft Internet Explorer 8 および 9
 - Mozilla Firefox 35.0
 - Google Chrome 40.0

CA EEM サーバのサポート

CA Configuration Automation は、EEM Server r12.51 CR02 バージョン（つまり EEM Server r12.51.2.11）で認定されます。

ストレージ エリア ネットワーク (SAN) マネージャ ソフトウェア

CA Configuration Automation は、以下のストレージ管理ソフトウェアと通信することにより SAN ストレージデバイスを検出します。

NetApp OnCommand (バージョン 4.0 以降)

NetApp ストレージシステムを検出します

注: NetApp OnCommand は、以前は DataFabric Manager サーバと呼ばれていました。

EMC SMI-S Provider (バージョン 4.4.0.0 以降)

EMC Clariion および Symmetrix ストレージシステムを検出します。

周辺装置

ローカルで接続されているか、ネットワーク経由でリモートアクセスが可能な DVD-ROM ドライブ、またはダウンロードされた DVD イメージをマウントする機能が必要です。

第 5 章：発行済みの修正プログラム

この製品の公開済みバグ修正の完全なリストは、<http://support.ca.com> の Published Solutions で見つけることができます。

第 6 章: ドキュメント

この製品には以下のマニュアルが含まれています。

管理者ガイド

CA Configuration Automation ユーザ インターフェース (UI) の [環境管理] パネルで使用可能なすべての機能の使用に関する詳細な手順が記載されています。また、CA Configuration Automation 構成ファイルを編集するための手順が含まれています。このマニュアルには CCA_AdminGuide_JPN.pdf という名前が付いており、CCA マニュアルのフォルダにあります。

ユーザガイド

CA Configuration Automation ユーザ インターフェース (UI) の [管理]、[ダッシュボード]、および [タスク] パネルで使用可能なすべての機能の使用に関する詳細な手順が記載されています。また、コマンドラインインターフェースを使用するための手順が含まれています。このマニュアルには CCA_UserGuide_JPN.pdf という名前が付いており、CCA マニュアルのフォルダにあります。

実装ガイド

NDG サーバ、CA Configuration Automation サーバ、CA Configuration Automation データベース、CA グリッド ノード、および CA Configuration Automation エージェントのインストールに関する詳細な手順が記載されています。また、BusinessObjects のレポート機能や CA EEM などほかの必須コンポーネントへのインストールに関する情報も含まれています。このマニュアルには CCA_ImplGuide_JPN.pdf という名前が付いており、CCA マニュアルのフォルダにあります。

コネクタガイド

CA Configuration Automation 用の CA Catalyst コネクタをインストールおよび設定する方法が記載されています。このマニュアルには CCA_ConnectorGuide_JPN.pdf という名前が付いており、CCA マニュアルのフォルダにあります。

メッセージ リファレンス ガイド

CA Configuration Automation での作業時に表示されるすべてのメッセージのリストが記載されています。また、メッセージが表示される理由および解決方法が含まれています。このマニュアルには **CCA_MessageReferenceGuide_JPN.pdf** という名前が付いており、CCA マニュアルのフォルダにあります。

リリース ノート

新機能、新しいブループリント、さまざまな CA Configuration Automation コンポーネントに対してサポートされる動作環境など、リリースに固有の情報が記載されています。このマニュアルには **CCA_RelNotes_JPN.pdf** という名前が付いており、ディレクトリの最上位レベルにある配付メディアにあります。

Readme

標準の製品マニュアルに含まれない既知の問題、回避策および臨時の情報が記載されています。製品を操作する前に、このファイルを閲覧してください。 **readme.html** ファイルには、Windows システムの場合は **dvd1** フォルダ、Linux または UNIX の場合は配付メディアのルートからアクセスできます。

オンライン ヘルプ

CA Configuration Automation サーバユーザ インターフェース (UI) で使用可能な機能すべての使用に関する詳細な手順が記載されています。ユーザ インターフェースの右上にあるヘルプ リンクから、オンライン ヘルプのトップ ページにアクセスできます。製品内の多くのページおよびダイアログ ボックスから、状況依存ヘルプを表示できます。

テナント UI ヘルプ

テナント UI からは独自のヘルプ システムを表示できます。テナント UI のインストールと設定の詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

注: PDF ファイルはプラットフォームやオペレーティング システムに依存せず、Windows、Linux および UNIX 環境で Adobe Acrobat Reader を使用して表示できます。

PDF ファイルを参照するには、Adobe の Web サイトから Adobe Reader をダウンロードしてインストールする必要があります (コンピュータに Adobe Reader がインストールされていない場合)。

付録 A: 使用条件

CA Configuration Automation マニュアル選択メニューは、この CA Configuration Automation リリースで使用するサードパーティ ソフトウェアの著作権および使用許諾契約が含まれている `CCA_TPSA.txt` という名前のテキスト ファイルにリンクしています。